

## 破産者野口真紀 偽装破産と脱税の疑惑のスキーム

PAG河合ちゃんから12億円の手数料を受け取り、麻布台パークハウス404号室を現金で購入。その後債権者破産申立による破産決定、そして疑惑の抵当権設定と宅建業免許更新。

この12億円の手数料は野口真紀が宅建業免許の更新をしたリアムインクという会社に入金されたのであろう。そして、その金の逃げ道若しくは財産隠匿は実姉が代表を務めるグロスパートナーズに、反社への資金供給は南青山ゼストワンを通じて行った可能性が高い。

グロスパートナーズは昭和43年に設立された社歴の長い会社である。この50年にも及ぶ会社に新たな動きが出てきたのが今年の2月。事業目的が突如変更されたのである。この会社は元々父親から譲り受けた会社である。父親の相続の時は限定承認しているくらいなので負債もあっただろうし、多額の繰越欠損金もあったであろう。おそらく数億円にも及ぶのではなかろうか。野口真紀はこの欠損金をうまく利用して財産の隠匿を図ったのではないか。この欠損金があれば仮にグロスパートナーズという法人に利益が出ても相殺されて税金を納めなくてもいいのだから。

南青山ゼストワンもグロスパートナーズが動き出したのと同時期に動き出している。会社が突如精算手続きに入ったのだ。しかも本店をグロスパートナーズと同じ住所にわざわざ移転してから。精算人には野口真紀と同時に破産したサンフランシスコエンタープライズの代表者と同じ大藪平太である。代表者を野口真紀から大藪平太に代えてから精算するのは。この会社からバレては困る資金の流れがあったのであろう。正しく臭いものに蓋をしてみたのだ。

